



県政 HOT NOW

知の大地に、人が育つ

岩手県立大学、来春開学へ。



教育の充実を目指す本県にとって待ち望まれていた岩手県立大学が、いよいよ来年4月に開学します。「実学・実践重視の教育・研究」、「地域に貢献する、開かれた大学」を建学の理念に、21世紀を担う若者たちの人材育成を目指します。(認可申請中)

八割が県外の大学へ
設立の背景

本県の大学収容力(進学希望者に対する県内大学の定員)と大学進学率は全国では下位にあります。県内の大学進学率のうち、実に八割が県外の大学に進んでいるのです。このような状況の中で、地域の進学需要に応えるため、大学の収容力を高めるとともに、本県の明日を担う人材を育成するために、高等教育機関と併せて四年制大学の整備が、県の課題となっていました。

時代のニーズに応える人材を
県立大学が育てる人材

岩手県立大学(以下「県立大学」)は、時代のニーズに応える次の四つのテーマを解決できる人材の育成を目指しています。

- 一 質の高い看護を求める社会のニーズへの対応
- 二 豊かで活力ある福祉社会の実現
- 三 利用者の側に立った、「人にやさしい」ソフトウェアの設計・開発
- 四 地域社会の計画や政策のプランニング・マネジメント

特色ある教育・研究

県立大学は次のような特色を持った教育や研究を行う予定です。

- ▼ 豊かな教養を身につけ、人間尊重の精神を養う教育：教養教育は全学部の学生が共通に学ぶ「全学共通科目」の学生が共通に学ぶ「全学共通科目」
- ▼ 学際的領域を重視した特色ある教育・研究：学部間の連携による積極的な共同研究
- ▼ 実社会に役立つ、実践的な教育・研究の重視：地域をフィールドにした調査研究や、市町村・企業などでの実習
- ▼ 地域に貢献する、開かれた大学：産業界との研究交流や、施設開放・公開講座
- ▼ 国際社会への貢献：外国人留学生の受け入れや、教員の海外派遣

四学部に短期大学部を併設

県立大学は「看護学部」「社会福祉学部」「ソフトウェア情報学部」「総合政策学部」の四学部を設置し、県立盛岡、宮古の両短大を短期大学部として併設。盛岡短大は学科を再編し国際文化学科を新設、移転します。また、教育・研究体制の発展にあわせ、大学院・研究所の設置なども行う予定です。

秀峰・岩手山のふもと 緑豊かで先進的なキャンパス

盛岡市の中心部から車でおよそ三十分、岩手産業文化センターにほど近い滝沢村菓子で、県立大学のキャンパス。雄大な岩手山と秀麗な姫神山を望み、森林公園や緑豊かな牧草地、カラマツ林に囲まれた、四季を通じて周囲の自然とのふれあいがもてる環境です。

約三十五ヘクタールと、県営運動公園の約一、五倍の広大なキャンパスには、各学部棟、メディアセンター、体育館など十二棟が建設され、建物は周囲の環境との調和を図って緑色の屋根とレンガ色の外壁で統一されています。

それぞれの建物は回廊で結ばれ、天候を問わず各施設間がスムーズに移動できるようにになっており、車椅子の人も移動しやすいよう、床の段差をなくするなどしたバリアフリーの造りになっています。回廊で囲まれた「県大モール」は教員や学生の語り・交流の広場になります。

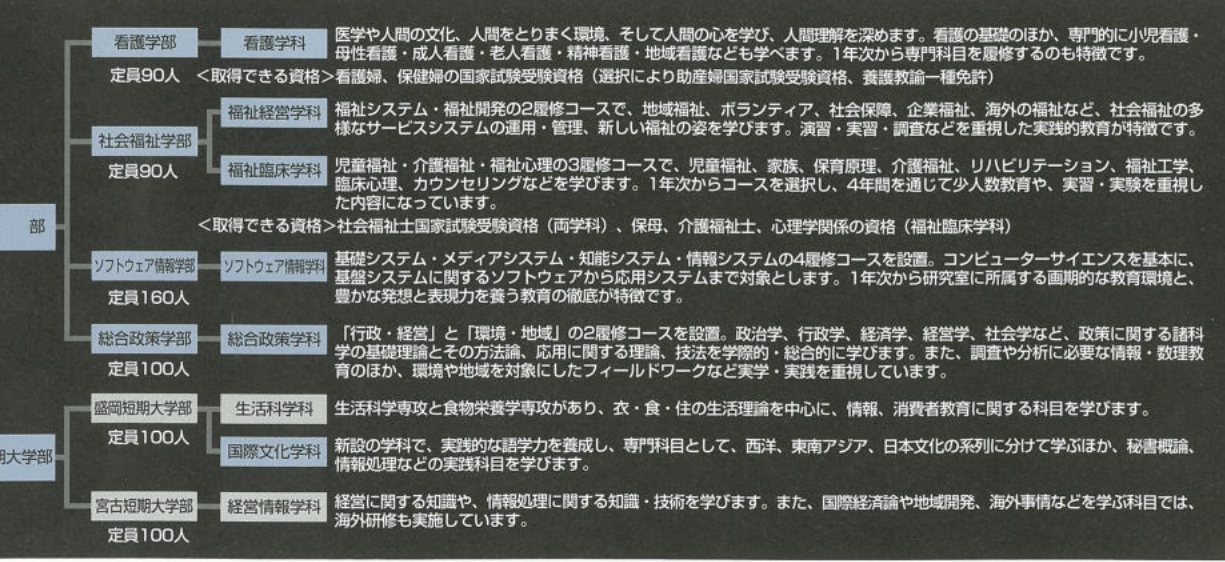
「メディアセンター」は、県立大学のシンボリックな施設で、図書館機能と情報センターを一体化した大学の情報拠点となります。センター内に大型のコンピュータを置き、各学部棟とは専用回線を接続、学生全員にコンピュータにアクセスできるIDを持たせるなど、コンピュータ教育にも力を注ぎます。

急ピッチで進む開学準備

大学の顔となる学長には、半導体、光通信の世界的権威で前東北大学総長の西澤潤一氏、副学長には塚本哲人県立盛岡短期大学学長が決まり、来年四月の開学に向けて急ピッチで準備が進められています。

学生の募集と入試要綱については、文部省の認可を受ける十二月下旬以降の発表となり、初年度は大学入試センター試験を利用せず、独自の選抜試験を行います。また、各学部の推薦入学者は、定員の三〇%を県内高校出身者から受け入れることが決まっています。

岩手県立大学 組織図



学長予定者プロフィール 西澤 潤一 (にしざわ じゅんいち)

大正15年(1926)、宮城県仙台市生まれ。昭和23年(1948)東北大学工学部電気工学科卒業、工学博士。東北大学電気通信研究所長、平成2年から8年まで東北大学総長(2期)などを歴任。半導体・光通信の世界的権威で、今日の光通信技術のほとんどを創案。「ミスター半導体」、「光通信のバイオニア」と呼ばれる。平成元年(1989)文化勲章を受章。岩手との出会いは、「旧制高校時代、宮澤賢治の『どんぐりと山猫』や『銀河鉄道の夜』を読み、幻想的な中に、人間としての大変な悲しみと愛情を感じ、心を打たれた。」ことに始まる。自著「新学問のすすめ」で語る。科学者としてのみならず、教育者としての著作も多く、近著に「東北の時代」、「技術大国・日本」の未来、「教育の目的再考」、「新学問のすすめ」など多数。

